

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 696 号	氏名	野中 美那子
学位審査委員	主 査	筑波 隆幸	
	副 査	根本 孝幸	
	副 査	藤原 卓	
論文審査の結果の要旨 1 研究目的の評価 本研究は、歯周病原菌 <i>Porphyromonas gingivalis</i> における 9 型分泌機構依存性分泌ペプチダーゼ、リシン特異的セリンエンドペプチダーゼの解析について検討しており、目的は十分に妥当である。 2 研究手法に関する評価 今回、解析を行うための新たな変異株及び目的タンパク質に対する抗体を作製し、また酵素活性実験においてもサンプルの選択並びに合成基質の採用など十分に検討されており、研究手法も妥当である。 3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、目的のタンパク質 PepK は、<i>P. gingivalis</i> に特異的な分泌機構 9 型分泌機構によって分泌された後、菌体外膜表面の A-LPS に局在することが解明されている。また、その活性は、リシン特異的セリンエンドペプチダーゼ活性を有し、菌体表面にて同細菌の分泌する Rgp により活性化されることが示されている。 また、<i>Bacteroidetes</i> 門に認められる PepK 類似タンパク質は、<i>Bacteroidetes</i> 門以外にも認められる PepK と類似な触媒ドメインに、9 型分泌機構依存性に分泌されるための C 末端ドメインが付加されたものと推測しており、相同遺伝子についても十分に考察されている。 本研究成果は、歯周病細菌 <i>P. gingivalis</i> の病原性において重要な知見を与えており、今後の慢性歯周炎の治療・予防へと繋がる可能性が大いに期待される。 以上のように本論文は歯周病細菌 <i>P. gingivalis</i> の病原性解明の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。			